

事業コード	H19-建-継-15		区 分	国庫補助 県単独
事業名	海岸侵食対策事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	海岸		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2515
路線名等	浅内海岸		担当課長名	萩野 敏明
箇所名	能代市浅内		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	07	施策目標(指標)名	海岸整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	H11 ~ H24 (14年)		総事業費	14.0億円	国庫補助率	1/2
事業規模	全体延長L=825.0m、人工リーフL=300m×2基					
事業の立案に至る背景	浅内海岸は、男鹿半島北部の米代川河口部に位置し、遠浅で弓状の海岸線を有している。背後にはロケット開発に必要な研究施設である宇宙航空研究開発機構の能代多目的実験場があり、公開実験などの際には、多数の見学者で賑わうほか、白砂青松として選定された「風の松原」に隣接しているため、一帯が憩いと安らぎの場として親しまれている。しかし、近年海浜の侵食が著しく、海岸保全施設が頻繁に被災している。このような状況から、海岸侵食防止及び海浜復元のため効果的な施設の整備をする必要がある。					
事業目的	浅内海岸の重要性を鑑み、50年確率波にも耐えうる波浪制御を沖合で行い、海浜の安定を図ると共に既設護岸と組合せた面的整備を行うために、周辺環境(景観)に配慮し背後地の安全性が確保できる人工リーフによる整備を進める。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,000,000	1,400,000	400,000	
	経費 内訳	工事費	888,700	1,288,700	400,000	海底地盤高の低下による増
		用補費	0	0	0	
		その他	111,300	111,300	0	
	財源 内訳	国庫補助	700,000	700,000	0	
		県 債	630,000	630,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源		-330,000	70,000	400,000		
事業内容	人工リーフ設置、測量試験費	人工リーフ設置、測量試験費			波浪の影響により海底地盤が低下したため、設置必要面積が増になり工事費が増加した。	
事業の進捗状況	全体計画	14.0億円	平成19年度末投資額	8.0億円	進捗率	57.2%
事業推進上の課題	近年の波浪の影響により、特に侵食が進行しかつ海底地盤の低下により、人工リーフの設置面積が増になった。					
関連する計画等	あきた21総合計画の中で、快適で安全な生活を実現するため、災害に強い県土づくりを目指し、海岸侵食対策等の推進が位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	背後にある「多目的実験場」や「風の松原」等には、観光地となっていることから、毎年多くの観光客が訪れており、景観や自然に配慮した工法への要望が強くなっている。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	海岸整備率				
	指標式	海岸整備率 = 整備延長 / 要整備延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	56.8 %		データ等の出典	河川砂防課	
	実績値 b	56.3 %				
達成率 b/a	99.1 %		把握の時期	平成19年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	なし
	指摘事項への対応
	なし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	浅内海岸の背後地には、ロケット開発に必要な研究施設である能代多目的実験場が位置している。また、白砂青松に選定された「風の松原」に隣接しており、一帯が憩いの場となっている。当該事業が経済及び、科学の進歩に与える影響は大きい。	23点
緊 急 性	近年、浅内海岸の多目的実験場付近では、海岸の侵食が激しく、汀線比較によると、年平均5.5m程の浸食が進んでいるため侵食対策工事により国土を保全する必要がある。また近年では、汀線の侵食により異常洗掘が発生し、緩傾斜護岸が被災する事例が見られている。よって、早急に侵食対策施設を設置し、周辺を保全する必要がある。	15点
有 効 性	[ 手段の妥当性 ] 海岸保全区域において海岸を防護することは海岸法により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。また、本地区において侵食防止及び景観の保全を図るためには人工リーフ工の実施が妥当である。 [ 整備効果 ] 人工リーフの実施区間について、侵食が収まりつつあることから効果は高いといえる。	15点
効 率 性	[費用対効果] 事業の費用対効果は1.3であり、効率性は高い。 [コスト縮減の取組状況] 人工リーフに用いられてい被覆ブロックは、経済的かつ施工性に有利な4 t型の被覆ブロックを用いて施工することによりコスト縮減を図っている。	13点
熟 度	[地域の状況]海浜の復元がなされてきていることから、当該事業に対する期待は大きい。 [事業進捗の見込み]景観や自然環境に配慮した施設を整備する必要があることから、平成21年度の事業完成を予定している。 [環境対策]海中及び海岸における生態系の積極的回復あるいは創出のために、現状及び将来の生態系を良好に保全し、かつ施工段階においても環境に配慮した工法を検討する。	15点
判 定	ランク ( ) 「必要性」「有効性」「効率性」が高く評価できるものと考えられる。	81点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。
--------------------------

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。
----------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 海岸事業

事業コード(H19-建-継-15 )  
箇所名 (能代市浅内 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	防護対象となる面積・人口 1 kmあたりの防護面積・人口	10 ha以上又は100人以上	15	15		
		7 ha以上又は70人以上	10			
		5 ha以上又は50人以上	5			
		その他	0			
		災害発生時の影響				
	浸水・侵食戸数	10戸/km以上	10	3		
		5~9戸/km以上	7			
		5戸/km未満	3			
	事業箇所の現状					
	波浪、浸食等に対する防護性	波浪、浸食の被害があるなど防護は劣っている	5			5
	被害は見られないが防護は劣っている	3				
	優れている	0				
	計		30	23		
緊急性	海岸整備の緊急性	過去の被害実績	過去に2回以上の被害実績がある	5	5	
			過去に1回の被害実績がある	3		
			記録された被害実績はない	0		
	侵食の速度	1.0m/年以上	10	10		
		0.5m/年以上1.0m/年未満	7			
		0.5m/年未満	3			
	生命財産の危険性	背後地住民の生命財産に関わる被害が想定される	5	0	0	
		越波による冠水や砂浜侵食の被害が想定される	3			
		生命財産の危険性は想定されない	0			
		計		20	15	
有効性	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5		
		施策目標に間接的に貢献する	3			
		施策目標とは別にその他関連事業である	1			
	海岸整備に伴う有効性	災害の防止効果	越波災害防止効果が発現する	5	5	
			災害防止効果は現状と変わらない	0		
		侵食防止の効果	砂浜侵食防止効果が発現する	5		
	侵食防止効果は現状と変わらない	0				
	計		15	15		
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5		
		1.0未満	0			
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	3		
		2項目	3			
		1項目	1			
		無し	0			
当初計画との比較 当初計画事業費からの増減	減少又は10%未満の増加	5	5			
	10%以上30%未満の増加	3				
	30%以上の増加	0				
	計		15	13		
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	5		
		配慮が不十分で検討している	3			
		特に配慮はない	0			
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5		
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3			
		意向が一部で強いがまだ要件の同意を得ていない	1			
事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	5			
	概ね進捗(90~100%未満)	5				
	計画より遅れている(90%未満)	3				
	計		20	15		
合計			100	81		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		